

第5節 環境教育等の推進

廃棄物処理問題の多くは、大量生産・大量消費というライフスタイルに起因するところが大きいことから、廃棄物の発生抑制、再使用等について、県民を対象とした廃棄物処理施設の見学や出前講座などによる啓発等に努めることが大切です。

1 環境教育・環境学習等

(1) 現状と課題

県内では、3Rの取組が進んできていますが、家庭における食品ロスやプラスチックごみ、事業系一般廃棄物の削減など、まだまだ減量化に向けて取り組むべき課題があります。

県や市町村等では、県民に対する環境教育等による意識啓発を行っていますが、引き続きあらゆる年代に対する環境教育等の機会の充実に努める必要があります。

(2) 施策の展開

ごみの発生抑制、再使用等についての意識の向上を図るため、県や市町村等では、以下に掲げる取組を進めており、引き続きこのような取組を進めていくことにより、県民の意識啓発に努めます。

また、市町村、教育関係機関と連携し、環境等に係る持続可能な開発のための教育（ESD）の考え方等も踏まえ、児童・生徒等の次世代を担う子ども達への教育から生涯学習に至るまで幅広く環境教育・環境学習を推進します。

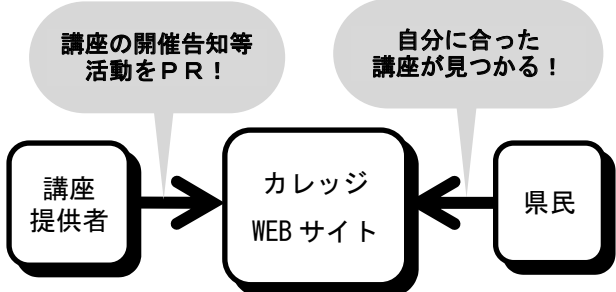

ア 信州環境カレッジ

- ・県で開催している信州環境カレッジでは、県民、NPO、企業、行政等の協働で、座学、体験、ワークショップ、e-ラーニングなど、様々な形態の講座を通して県民の環境に関する学びを提供します。
- ・令和元年度の受講人数は11,747名、講座登録数は274講座となっています。

✿ コラム | 信州環境カレッジ

⇒⇒⇒ WEBサイトはこちらから ⇒⇒⇒

信州環境カレッジは、県民、NPO、企業、行政等の協働による全県的な「学び」のムーブメントです。



- 講座提供者は、県内で開催される講座や学校への出前講座を登録し、WEBサイトに情報を掲載。
- 県民は、WEBサイトから自分に合った講座を見つけて受講。
- 県は、講座実践者を支援。

イ キッズ ISO プログラム

- ・県及び信州豊かな環境づくり県民会議は、小学生や中学生が家庭のごみ減量を始めとした環境保全に取り組む「キッズ ISO プログラム」により、実践的な環境教育を推進します。
- ・令和元年度の参加人数は 253 名となっています。

ウ 施設見学、リサイクル体験

- ・住民にごみ処理の状況を知ってもらい、ごみの分別収集や減量化を図るとともに、ごみ処理に対する意識を高めてもらうため、積極的な施設見学の受入れや、リサイクルを体験する講座・教室を開催します。
- ・施設見学等を行っている市町村は 32 市町村、出前講座等を行っている市町村は 48 市町村となっています。

表 4-5-1 市町村ごみ減量化施策取組状況（令和 2 年 5 月 1 日現在）

項 目	実施市町村数
施設見学等	32
出前講座・説明会等	48

（資源循環推進課）

エ こども記者体験（県庁見学）と長野県政出前講座

- ・社会見学の小学生を対象に県が実施している「県庁見学」では、「こども記者体験」のテーマを「みんなでごみをへらそう！～食品ロスや海洋プラスチックごみをへらすためにできること～」として、体験学習を通じた普及・啓発を行います。（令和元年度実績：4 校、34 名）
- ・県内に在住・在勤・在学しているグループから依頼があった場合に、県職員が直接出向いて施策等について説明する「長野県政出前講座」では、「ごみの減量化・リサイクル、廃棄物処理」をテーマに、循環型社会に向けての法制度や廃棄物処理の現況、県及び市町村の取組、県民や事業者の方に取り組んでほしいこと等について説明し、環境への理解を深めています。

オ 環境美化教育優良校等表彰

- ・（公社）食品容器環境美化協会では、空き缶等の散乱防止・リサイクルの実践教育に優秀な成果を上げている小・中学校を表彰することにより、環境美化教育を奨励し、地域の環境美化を推進しています。

カ 産廃夏休み親子体験教室

- ・（一社）長野県資源循環保全協会では、子どもたちの環境を保全する心を育成する一助として、産業廃棄物の種類、量、処理の流れを実際に親子で見き

聞き学習する「産廃夏休み親子体験教室」を開催しています。

- ・水がきれいになる実験や、排出事業所、中間処理施設及び最終処分場の見学を通して、産業廃棄物処理の大切さなどを学んでいます。

キ 循環型社会形成推進功労者表彰

- ・県は、循環型社会の形成を推進するため、廃棄物の適正処理及び資源化等の推進、啓発・普及及び指導教育等に率先して取り組み、顕著な実績を上げている事業者、個人、グループ及び学校等を功労者として表彰します。

ク 環境保全に関するポスター及び標語コンクール

- ・県は、信州豊かな環境づくり県民会議と連携し、3Rやプラスチックごみ散乱防止などの環境保全への理解や関心を高めるため、広くポスターや標語を募集し、これらのポスターや標語を啓発活動等に活用して、県民一人ひとりの環境保全への取組を推進します。

2 環境美化活動

(1) 現状と課題

海に流れ出るプラスチックごみの7割は陸域から発生するといわれており、太平洋、日本海に流れ込む河川を有する本県も、決して他人事ではありません。

また、観光地や河川等におけるポイ捨ては後を絶たず、今後も意識啓発に取り組むとともに、地域と一緒に環境美化活動に取り組んでいく必要があります。

(2) 施策の展開

県及び市町村は、以下に掲げる取組等を通じ、県民が一体となつてごみの散乱のない美しい環境づくりに取り組みます。

ごみの発生抑制、適正処理等について意識の向上を図るため、引き続き、観光地も含めた環境美化活動、啓発活動等を推進します。

ア きれいな信州環境美化運動

- ・散乱した空き缶等を収集する美化清掃活動、ごみの持ち帰り運動及び空き缶等散乱防止啓発運動の輪を県民運動として広げ、観光地を含めた環境美化運動を推進し、年間を通じて長野県全体をきれいにする運動を展開します。
- ・令和元年度の「ごみゼロの日」統一美化キャンペーン及びきれいな信州美化キャンペーンにおける参加者数は、約28万人となっています。

表 4-5-2 令和元年度きれいな信州環境美化運動の実績

キャンペーンの名称	「ごみゼロの日」統一 美化キャンペーン	きれいな信州美化 キャンペーン
実施期間	4月1日～6月5日	9月24日～10月1日
空き缶等回収参加者数	196,807人	76,250人
回収量	149.5 t	261.0 t
街頭啓発参加人員	7,425人	19人

(資源循環推進課)

イ クリーン信州 for ザ・ブルー

- ・信州プラスチックスマート運動で、海洋プラスチック問題について上流県から取り組むきっかけの一つとするため、ボランティアの方に参加いただく河川清掃を、海ごみゼロウィーク期間（5月30日～6月8日）前後に実施します。
- ・令和元年度は、県内10か所で実施し、ボランティアの方を含む385人により、計約13,000リットルのごみを回収、うち約64%がプラスチックでした。
- ・この活動を更に広げるため、流域沿岸県と連携して取組を進めます。



ウ アダプトシステム³¹・愛護活動

- ・平成15年度から「信州ふるさとの道ふれあい事業」としてアダプトシステムを本格的に実施しており、令和元年度末現在、350団体が道路の里親として活動しています。この取組は、以前から各地で行われてきた道路愛護活動を一歩進めた形の活動として、住民と行政の協働・連携による道路の維持管理活動の推進に大きな役割を果たしています。
- ・平成24年度からは、花苗や必要な物品等を提供し、里親を支援していただく企業等をサポーターとして登録する制度を開始し、令和元年度末現在、17団体が登録しています。
- ・河川についても、地域住民団体が県に登録し、「河川愛護活動」として清掃等の活動を行っており、令和2年度は約890団体、延べ約15万人の方々が活動しています。
- ・引き続き上記の取組を通じて環境美化に努めます。

³¹ アダプトとは「養子縁組をする」という意味です。住民が道路などの公共スペースを養子のように愛情をもって面倒を見る（清掃・美化）ことから命名されました。地域住民団体、個人、企業又は学校が道路の里親となり、里親・市町村・建設事務所による三者協定に基づいて、里親はボランティアで美化活動等を実施し、市町村・建設事務所は里親の活動を支援するもの。



コラム

農業用水路「^{じっかせぎ}拾ヶ堰」の美化活動（安曇野市立豊科南小学校）

※（公社）食品容器環境美化協会主催 環境美化教育優良校等表彰 環境大臣賞受賞

安曇野市立豊科南小学校では、近くを流れる農業用水路「拾ヶ堰」から水を引いた学校ビオトープを1975年に設置。しかし、そのビオトープは約20年前には日々ごみが流れ込み、掃除をしても追いつかないほどでした。

対策として、児童は取水元である拾ヶ堰の清掃を行うクリーン大作戦を企画。現在では保護者や地域住民、団体、自治体職員ら総勢700名で行う一大行事に発展したほか、アルミ缶回収活動や花壇整備など、学年に応じた美化活動にも励んでいます。

